

「鳥よりも、花よりも」

マタイによる福音書 6:25-34

2025年7月27日
野村 友美 師

<「空の鳥、野の花を見よ」>

毎日、本当に暑いですね。日中は外に出ただけで倒れそうなのですが、それでも裏の公園や堺川沿いではサルスベリがきれいに咲いていて、あちこちの軒下でツバメの雛が巣立ち始めています。「この暑さの中で、それぞれたくましく生きているんだな」と励まされながら、日傘を握りしめて歩いている今日この頃です。

さて、この礼拝堂のピアノの後ろ、いちばん前のスタンドグラスには「空の鳥、野の花を見よ」というタイトルがつけられています。あふれる光の中で、鳥たちが空高く羽ばたいて、野の百合が美しく咲き誇っている。このスタンドグラスのモチーフになったのが、まさに今日の聖書の物語です。

何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと、思い悩むな。空の鳥は、種蒔きも刈り入れもせず、倉に納めることもしない。でも、あなたがたの天の父は、鳥を養ってくださる。野の花は、働くことも糸を紡ぐこともしない。でも神様は、野の花をこんなに美しく装わせてくださる。

この言葉を語られた時のイエス様も、きっと鳥や花のたくましさ、ひたむきに生きるその姿に、励まされておられたんじゃないかと思います。

<鳥のように、花のように>

ガリラヤ湖のほとりの小高い丘の上で、イエス様は弟子たちと集まってきた人々に、いろいろな教えを語っておられました。天に富を積みなさい、あなたがたは神と富とに仕えることはできない。そう話された後に、イエス様は「だから言っておく」と続けて、この空の鳥と野の花の話をなさいました。

私たちを本当に生かす富、生きる力と安心を与えてくれるいちばんの富は、神様から私たち一人ひとりに注がれている愛だ。だから「あれが必要だ、これがないと安心できない」なんて、助けてくれそうなものをかき集めて、あれこれ積み上げようとしなくていい。そういう話の続きとして、イエス様は今日の言葉を語られたんです。

「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか」と思い悩んで、あなたたちの心と体をすり減らさなくていいんだ。

そう言って、イエス様は話を聞いている弟子たちと群衆の目を、ガリラヤの自然に向けさせました。

ほら、空を飛んでいるあの鳥たちを見てごらん。鳥は種まきもしないし、収穫もしないし、食べ物を倉にしまっておくこともしない。でも天の父である神様は、鳥たちに食べるものを与えて、養っておられるじゃないか。ほら、ここに咲いている野の花をよく見てみなさい。花はきれいな布を織ったり、アクセサリーを買うために働いたりもしない。糸を紡いで、自分で服を作ったりもしない。

でも神様は、あのソロモン王よりも華やかに美しく、野の花を装わせておられるじゃないか。ましてあなたたちには、とイエス様は言われます。鳥よりも花よりも、あなたたちには価値があるじゃないか。

このイエス様の言葉は、ちょっと誤解を生むかもしれません。最近「日本人ファースト」なんていう言い方が流行っていますけれど、それこそ「人間ファースト」みたいなことを、イエス様はおっしゃっているのではありません。この地上では人間がいちばん偉い、だから他の動物や植物を好き勝手に扱ってもいい。鳥や花でさえ神様は養われるのだから、人間こそ何もしないで、神様の恵みに頼ればいい。そんなことは、聖書は一言も語ってはいません。

創世記の世界創造の物語は、神様が世界のすべてをお創りになって、その一つ一つを「良し」とされたこと、そして人間を「神のかたち」に創られたことを告げています。

「海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

（創世記 1:28）」

神様から人間に言われたこの言葉は、「神のかたち」に創られた存在として、神様が「良し」とされた世界のすべてを愛して大切に扱うように、という命令です。神様が創られたすべてを、神様と共に喜んで、愛して、大切にする。それこそが、神様から人間に与えられている本来の生き方なんです。

それだけじゃありません。神様は人間を創られた後、エデンの園に住まわせて、そこを耕させて守るようにされました。そして、人間が神様との約束を破って罪を犯して、エデンの園から追放された後も、神様は人間に土を耕させることにした、と創世記は物語っています。

鳥が空を飛んで、地上の食べ物を探して生きるものとして、創られたように。

花が水と太陽に養われて、地面に根を張って、それぞれの美しさで咲くものとして、創られたように。地を耕して、種を蒔いて、収穫して、自分たちの食べ物を育てるものとして、神様は人間をお創りになられたんです。

畑を作ったことがある方はよくご存知でしょうが、土を耕して収穫するまでには、ちょっとやそつとじゃない手間がかかります。

毎日毎日、水を遣ったり虫を取ったり、細やかなお世話と配慮が欠かせません。そんな風に、植物や動物に日々こころを配って、必要な世話をし続けることで、自分たちの生きる糧を手に入れる。それが神様から私たち人間に与えられた、生きるための方法なんです。

「こう生きなさい」と神様が私たち人間を創られた、その生き方を精いっぱい生きるなら、後のことは神様が責任を負ってくださる。

このことを、今日のイエス様の言葉が保証しているんです。

<鳥よりも、花よりも>

鳥も花も、そして私たち人間もみんな、神

様が創られた世界で、神様に創られたものとして、
神様の秩序の中で生きています。

この世界で生きるすべてのものが、「こう生きな
さい」とそれぞれに定められた生き方で、
それぞれの命を精いっぱい生きています。
鳥も花も私たちも、明日自分たちがどうなるのか、
確かなことは何もわからないものです。
鳥だって、いつも木の実や虫を探し出せるとは限
りませんし、自分よりもっと大きな鳥や他の動物
に襲われて、逆に食べられてしまう時もあるで
しょう。

花だって、それこそ明日には萎れて枯れてしま
うかもしれませんし、引っこ抜かれたり、薪代わ
りに火の中に投げ込まれるかもしれません。

私たちだって、いつ病気にかかったり事故に遭う
かを知ることは、誰にもできないでしょう。

でも、いえ、だからこそイエス様はこう言われる
んです。

「思い悩むな、あなたたちに必要なものは全部、天
の父である神様がご存知だ」と。

鳥が鳥として、花が花として、与えられた命を
生きるために必要なものを、神様はこの世界に
ちゃんと備えておられます。

同じように、人間が人間として生きるために必要
なものは、神様がちゃんと備えておられる。

そうイエス様は教えてくださいました。

人間が人間として生きるために必要なもの。
それは、この世界を創られた神様を知って、すべ
てのものに注がれている神様の愛を知って、その
恵みに感謝して、神様をほめたたえる心です。
神様が創られたすべてを喜んで、日々心を配って、

大切に扱う力です。

教会学校で歌う賛美歌集の中に、「このまま
の姿で」という曲があります。

♪小さな野の花でも、主の愛を受けて輝く
あふれる主の恵みは、いついつまでも
バラはバラのように、
すみれはすみれのように、
わたしもこのままの姿について行きます
空を飛ぶ鳥たちは、主の愛をうたい続ける
あふれる感謝、喜びは、いついつまでも
驚は驚のように、すずめはすずめのように、
わたしも主のほめうたを歌い続ける♪

短くてやさしい讃美歌ですが、イエス様が
教えておられることが、この歌詞にぎゅっと
凝縮されているように思います。

バラはバラのように、すみれはすみれのよ
うに、驚は驚のように、すずめはすずめのよ
うに。そして私たちが私たちのように、生き
ていくために。

人間として生きるために必要なものを、私
たちが願い求めるなら、神様はいつだって
喜んで与えてくださる御方です。だから「何
よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」
と、イエス様は言われました。

他の何かや誰かじゃなくて、創り主である神
様が、この世界を導いてくださるように。
自分や誰かの偏った「正義」じゃなくて、こ
の世界のすべてを愛しておられる神様の正義
が実現されるように。

ただ神の国と神の義を求めるなら、人間が人間として生きるために必要なすべてを、神様が私たちに与えてくださる。そうイエス様は、私たちみんなに約束しておられるんです。

明日がどうなるのかは、誰にもわかりません。それぞれの個人的な状況もそうですが、私たちが生きている現代では特に、いろんな情報が次から次に入ってきます。

目まぐるしく変わる社会に何とかついて行くために、私たちはいつも自分をアップデートし続けるように迫られています。

昨日までは「これで大丈夫」と思っていたのに、今日はもう状況が変わっている。だからなるべく安心できるように、後悔しないように、あれもこれもと準備しておきたくなるのは当たり前でしょう。

自分のことばかり考えて、他人を思いやれない人が増えている、ということをよく聞くようになりました。これだけいろんな情報に追い立てられて、自分を守るのに必死で余裕がない環境に置かれていれば、それもそうだろうと思わされます。

先が見えない不安と焦りは、人の心をじわじわと蝕んで、目の前の誰かを思いやる力を削り取ってしまうものですから。

そんな日々を生きる私たちにも今日、イエス様は語りかけておられます。「明日のことまで思い悩むな」と。

どうなるのかわからない、何が起きるかもわからない明日のことを心配して、あなたたちの心と体をすり減らさなくていい。あなたがあなたとして

生きるために必要なものは、神様がちゃんと備えていてくださる。そう約束して、イエス様は今日も、空の鳥と野の花を指さしておられます。

鳥のように、花のように、それぞれに与えられた生き方を精いっぱい生きなさい。「神のかたち」に創られた人間として、神様がお創りになったすべてを喜んで、その恵みに感謝して、一緒に生きるものたちを大切に扱いなさい。

ただ神様の導きと、神様の愛の実現を追い求めなさい。そうすれば、神様はあなたに必要なすべてを与えて、あなたの命を鳥よりも花よりも輝かせてくださる。このイエス様の約束を抱えて、私たちは新しい一週間の旅路を、勇気をもって歩き出して行きましょう。

明日の苦労も、明日の心配も、イエス様が明日また一緒に背負ってくださいます。

だからバラはバラのように、すずめはすずめのように、私たちは私たちのように、与えられている生き方で今日も精いっぱい生きていきましょう。

鳥にも花にも負けないぐらい、私たちのこの命を、神様の愛で輝かせていけますように。すべての人の命が、神様の愛を受けているものとして、大切にされますように。

神の国と神の義が、私たちのこの世界にあらわされますように。お祈りいたします。